

訪日客誘致へ「体験」提供

仙台に旅行新会社

全国に比べ遅れている外国人観光客の東北への誘致を目指し、2016年1月に仙台市で新しい旅行会社、ガイドが営業を始める。交流サイト(SNS)の分析で得た情報を参考に、地元で詳しい市民ガイドを活用し、こけし作りや酒蔵巡りなどの体験を提供、宮城県も補助金で支援を検討する。気仙沼を含む三陸沿岸でも同様の試みが始まる可能性がある。



こけし作り・酒蔵ツアー SNSを分析、企画に反映



外国人向けに伝統文化や食の体験ツアーを企画する(宮城県大崎市の鳴子温泉)

ガイドは旅行会社出身で現在は広告制作会社の創業者(仙台市)で観光プロデューサーを務める後藤光正氏が設立する。後藤氏は13年から地元を英語で案内する市民ガイドを育成している。県は

訪日客向けに観光協会で手掛けにくいルート作成や宣伝活動を進める担い手として注目を集めた。新会社の資本金は200万〜300万円、初年度の売上高目標は数千万円。台湾や英語圏からの観光客誘致を目指す。

新会社は旅行商品の開発にあたり、日本IBMあるテーマを洗い出し、ツィッターなど主要交流サイトへの東北に関する投稿を調べ、「温泉に入りたい」などの情報を抽出。投稿者と投稿内容の関連など大量のデータを

分析して旅行先で関心の発に当たり、日本IBMの協力を得る。IBMはツアーの企画や土産品の開発に生かす。16年には大崎市鳴子温泉で職人にこけし作りを教わったり、塩釜市にある酒蔵や魚市場を巡ったるツアーを催行する案内所も作る。地元民

も始める。仙台市内には英語を話せる人が常駐し外国人観光客からの問い合わせに対応する案内所も作る。地元民がおもめの場所を案内する人材の養成講座も開く。14年に宮城県内の宿泊施設を使った約10万人の外国人のうち約3割は台湾からの観光客で、国・地域別では最も多かった。欧米からの観光客は東北の自然や温泉、神社

仏閣などに興味を持つ人が多い。新会社はこれらの人々に対し、体験型ツアーを売り込みやすいと考えている。